

ザ・プロデューサー・シリーズ

アーヴィン・アルディッティがひらく

The Producer Series IRVINE ARDITTI

8.29 (木) 19:00 大ホール

Thursday, August 29, 2024 at 19:00 / Main Hall

オーケストラ・プログラム

Orchestra Program

日本ギリシャ・文化観光年記念事業



細川俊夫

Toshio Hosokawa
(1955-)

● 『フルス(河)』～私はあなたに流れ込む河になる～

弦楽四重奏とオーケストラのための (2014)

Fluss —Ich wollt', ich wäre ein Fluss und Du das Meer—
for String Quartet and Orchestra

ヤニス・クセナキス ● 『トゥオラケムス』

Iannis Xenakis
(1922-2001)

90人の奏者のための (1990) ※武満徹の60歳バースデーに寄せた作品

Tuorakemu for 90 Musicians
in homage to Toru Takemitsu on the occasion of his 60th birthday

————— 休憩 intermission —————

ヤニス・クセナキス ● 『ドクス・オーク』

Iannis Xenakis

ヴァイオリン独奏と89人の奏者のための (1991) [日本初演]

Dox-Orkb for Violin Solo and 89 Musicians [Japanese Premiere]ソロ・ヴァイオリン：アーヴィン・アルディッティ
Irvine Arditti, Violin Solo

フィリップ・マヌリ ● 『メランコリア・フィグーレン』

Philippe Manoury
(1952-)

弦楽四重奏とオーケストラのための (2013) [日本初演]

Melencolia-Figuren for String Quartet and Orchestra [Japanese Premiere]

I-Ⅶ.

弦楽四重奏：アルディッティ弦楽四重奏団

Arditti Quartet, String Quartet

第1ヴァイオリン：アーヴィン・アルディッティ
Irvine Arditti, 1st Violinヴィオラ：ラルフ・エーラーズ
Ralf Ehlers, Viola第2ヴァイオリン：アショット・サルキシヤン
Ashot Sarkissjan, 2nd Violinチェロ：ルーカス・フェルス
Lucas Fels, Cello指揮：ブラッド・ラブマン
Brad Lubman, Conductor東京都交響楽団
Tokyo Metropolitan Symphony Orchestra■ プログラム・ノート
須藤まりな (細川作品を除く)

● 細川俊夫 (1955～)

『フルス(河)』～私はあなたに流れ込む河になる～
弦楽四重奏とオーケストラのための (2014)

東洋の道教(タオイズム)の考え方では、世界の根底には、気(宇宙の根源を生み出すエネルギー)が流れており、その流れの変化が天地宇宙を形作ると捉えられている。その流れは重なり合って「陰陽」をなし、その陰陽の二つの気が交わって万物を生じさせる。光と影、寒と暖、高と低、天と地、男と女のような相反する原理が、お互いを殺し合うことなく補い合い、宇宙をうみだしていく。(そこには男女の交合のようなエクスタシーがある)

私は音楽を、世界の奥に流れる気の河(音の河)と捉え、それを陰陽の原理によって生成させたい。西洋音楽の音を素材として構築するという考え方ではなくて、世界の奥に流れている気の流れを聴きだし、それを陰陽の宇宙観によって紡ぎ出す作業が作曲という行為である。

一つの音(es音)の世界を聴きだすことから始まったこの『フルス』は、その一音に含まれる光と影を少しずつ拡大していく。そのes音が、esとdの二つの音に分離し、さらにそれがより大きな音程の差をもつ音響に展開していくが、根本的にはそれは冒頭のes音に孕まれていた音響と捉えている。

弦楽四重奏が人、そしてオーケストラはその人の内と外に拡がる自然、宇宙と捉えられている。弦楽四重奏のうちに孕まれた陰陽世界が、オーケストラにも反映され、その様々な流れの出会い、衝突、交合が河の流れのように変容していく。

副題の「私はあなたに流れ込む河になる」は、私の存在が音となり、より大きなものに向かって流れ込む様子を想像して、この作曲を始めたことによる。アルディッティ・カルテットという特別に力強い「気」を感じさせる演奏家たちに触発され、彼らの40周年のお祝いとして作曲し、この作品を彼らに捧げる。この作品の前に彼らのために書いた弦楽四重奏のための小品『遠い小さな河』がこの作品の原型となっている。

[細川俊夫]